

その他普及記事 (Other articles)

映画『白いトリュフの宿る森』 試写会体験記

Movie preview: The Truffle Hunters

保坂 健太郎^{1*}, 佐々木 廣海²

Kentaro Hosaka^{1*}, Hiromi Sasaki²

¹ 国立科学博物館植物研究部, 〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

Department of Botany, National Museum of Nature and Science, 4-1-1 Amakubo, Tsukuba-shi, Ibaraki 305-0005, Japan

² 神奈川県藤沢市

Fujisawa-shi, Kanagawa Prefecture, Japan

* Corresponding author (主著者)

E-mail: khosaka@kahaku.go.jp

Article Info: Submitted: 18 January 2022 Published: 31 March 2021

去る2022年1月27日、東京にあるソニー・ピクチャーズ エンタテインメント虎ノ門オフィスにて開催された、映画『白いトリュフの宿る森』 マスコミ向け試写会に参加する機会に恵まれた。映画は2022年2月18日(金)から公開されるので、本記事が出版される頃には、すでに多くの会員が映画を楽しんでいるかもしれない。が、執筆時点では日本国内の「トリュフ関係者(広義)」でこの映画を見たのは保坂・佐々木の2名だけであると自負しているので、一足先に(そして内容を忘れてしまわないうちに)映画の感想を記しておきたい。

映画の舞台は北イタリアのピエモンテ州。だから登場人物はみんなイタリア語(Wikipediaによれば一部はピエモンテ語)で話す。てっきりイタリア映画かと思っていたが、監督はアメリカ人。映画が公開されたのは2021年3月ということだ。原題はズバリ“The Truffle Hunters”となっていて、これがなぜ邦題で「白いトリュフの〜」になったのかは聞きそびれたが、「トリュフ・ハンター」とするよりはずっと、この映画のもつどこかミステリアスな雰囲気うまく反映している気がする。

最初に断っておきたいのだが、この映画は決して地下生菌の探し方、見分け方を勉強するためのハウツーものではない。あまりいないと思うが、もし多種多様な地下生菌が掘り出される場面を期待しているとしたら、残念ながらその希望はかなわない。なにしろ登場するトリュフはただ一種。アルバ産の白トリュフ、すなわち *Tuber magnatum* だけなのだ。映画のチラシにも「夜な夜なおじいさん達が〜」とか「最高のドッグムービー」などの文字が並ぶ。つまり、白トリュフとそれを探す人々とトリュフ犬、

そしてトリュフの生み出す富に群がる人々などをめぐる群像劇ドキュメンタリー、というのがこの映画の本質なのだと思う。

しかしやはりトリュフ映画。トリュフを探す場面はたくさん登場する。日本地下生菌研究会の採集会などで見られる風景とはガラッと違う雰囲気を、存分に味わってほしい。この映画を見るまでに、ヨーロッパでのトリュフ狩りについて漠然と抱いていたイメージとは異なる、意外な場面がいくつかあった。例えば映画の冒頭では、初老の男性(トリュフハンターの一人)と愛犬がトリュフを探して山の中を進んでいくのだが、かなりの急斜面を登っている場面もあった。広大な平野部で探すものと思っていたが、必ずしもそうではないらしい。また、かなり雪が降り積もる時期にトリュフ狩りに出かけていく様子も描かれていた。会員のみなさんも雪の日に地下生菌探しはなかなかしないだろうし、実際にあまり採れないと思う。でも、真冬にもう少し頑張ってみても良いかもしれない。

もうひとつ意外だったのは、トリュフ犬がトリュフを見つける場面である。いまさら豚が主力であると思っている人はいないと思うが、豚はトリュフを見つけると興奮して齧ってしまい、人間と取り合いになるからダメ。よく躡けられた犬はトリュフをきれいなまま人間に渡してくれるから最高、というようなことを聞いたことがあるのではないだろうか?でも映画の中のトリュフ犬は、トリュフを発見するとまさに興奮状態で、トリュフから引きはがすのに一苦労(爪の跡もついてしまう)、といった感じだ。もちろん豚の興奮とは意味合いが異なると思うが、犬とボールで遊んだあとに、ボールの表面がツバでねっとり濡れている様子が、そのままトリュフ

に当てはまることがあるのかもしれない。

そのほかにも、トリュフ狩りの最高のポイントは自分の子供にも教えないとか、トリュフ狩り仲間も高齢化が進んでいるとか、ライバルを出し抜くために卑怯な手を使うとか（これはネタバレにもなるのであえて詳しくは紹介しないが、かなり残酷な手を使うこともあるらしい）、異国の雰囲気満載の映画なのだが、ヨーロッパのトリュフ狩りの本質はマツタケ狩りと共通する点がとても多そうだ。研究会の会員に関連していそうなこととしては、トリュフがひっそり埋もれていると思うと居ても立っても居られずに家を抜け出し森へ行く、そんなおじいさんが奥さんに叱られる場面も登場する。みなさんも自分の胸に手を当てて考えるべきかもしれない。

2020年以降は新型コロナウイルス騒ぎがあり、あまり外にも行けずストレスを感じている人も多いと思う。しかしきのこ映画の当

たり年でもあり、「素晴らしき、きのこの世界」に引き続き本作「白いトリュフの宿る森」が公開される。再びみんなで集まって存分に地下生菌探しができる日が来るときにそなえ、このトリュフ映画を見て気分を盛り上げておくことをおススメする。なお、予告映像を含めた映画の情報は、公式ホームページ (<https://www.truffle-movie.jp>) より確認できる（注：ただし、当初の上映予定は3月24日までとされている）。

謝辞

試写会の参加にあたり、株式会社アンブラグドの天野 あゆみさん、ソニー・ピクチャーズ エンタテインメントの森島奈津子さん、ハート & ハートの山中佐知子さんには大変お世話になりました。この場をお借りして御礼申し上げます。